

# 平成30年第1回 運営協議会報告書

報告年月日 平成30年12月16日(日)

報告者 齊藤 富美子

1. 用務	平成30年度 第1回運営協議会			
2. 日時	平成30年12月15日(土) 13:30~15:00			
3. 会場	アイーナ6階 講師控室1・2			
4. 参加者	県企画室 成田 雄氣	主査	センター 野澤 日出夫	センター長
	県企画室 目時 麻由	主査	センター 佐々木 明宏	副センター長
	運営委員 中島 清隆	委員	センター 櫻井 則彰	事務局長
	運営委員 生田 弘子	委員	センター 齊藤 富美子	センタースタッフ
	運営委員 加藤 直子	委員		
	運営委員 千田 恭平	委員		
	5. 議事	第1回運営協議会開催		
	<p>※写真別紙参照 環境学習交流センターにお集まりいただき野澤センター長がセンターについて説明 その後6階講師控室に移動、次第に沿って進められた。</p> <p><b>【会議の内容】</b> 1 開会 2 代表理事挨拶 3 両センター評価について 4 議事 1) 両センター事業実績説明 2) 今後の運営に向けて 5 その他 6 閉会</p> <p><b>1 開会の言葉 櫻井事務局長より</b> <b>2 代表理事挨拶</b> <b>【挨拶内容】</b> 本日、年の瀬のお忙しい中を、また、特段のお寒い中を遠路からお集まり下さいまして有難うございます。 日頃から、岩手県の環境に関しまして深いご理解とご協力を戴いており心から感謝申し上げます。また、常にご指導頂いております県当局から成田主査・目時主査には休日にも関わらずオブザーバーとしてご参加頂き有難うございました。 ご存知の通り、ポーランドで開催されております「COP24」は、各国が2020年以降の温暖化対策の国際的な枠組みであります「パリ協定」の実施に必要なルールの採択を目指し、昨日までの日程で2週間にわたって交渉を進めておりました。 しかし「パリ協定」の実施に必要なルールをめぐり、各国の温室効果ガス削減の状況の検証方法や、先進国と発展途上国の対立、すなわち発展途上国としては、現在の温暖化の根源が先進国にある事から、しかるべき資金支援が必要との事で、その資金額、支援時期など意見が折り合っていない。 議長国のポーランドは、本日から会期の延長を決めて、議長案として新たなルールを示す方針で今後も交渉が続けられます。 この国際的なルールが合意されると、私たちの活動にも取り込むことになります。 実は私の憶測ですが、この会議が行われているポーランド・カトウィツェは、石炭大国で30カ所の炭鉱と9万人の雇用を抱える地域であり、COP24 ポーランド会議最大のスポンサーが大石炭企業である事、そして各国のパリ協定に向けた取り組みに温度差が大きい事なども課題が多く</p>			

厳しい合意に至らないのではないかと危惧しています。

この様な中、本日は、限られた時間ではありますが、岩手のセンター活動に対して、忌憚の無いご意見を頂戴して、急激な変化が起こっている環境対応において、県民への啓蒙と、限られた予算の中で効率の高い活動にして行きたいと思っております。本日は宜しくお願い致します。

#### ○岩手県環境生活部環境生活企画室成田主査より運営状況評価についての説明

実施要領について趣旨説明

評価項目、資料2、資料3

組織体制、事業の実施効果など過去の実績と未来について（今後も受託し運営していただいてよいかどうかの評価である）

#### 会長の選任

生田氏より中島委員を会長に推薦 会長の中島氏が議長。

会長が副会長を指名できることから副会長は生田氏に決定。

#### 3 両センター運営状況報告

##### ○齊藤より PP（映像）を見せながら昨年度の事業と大きく変わった取り組みについて説明

（PP データー添付参照の事）

- ・現在のスタッフの状況について。退職1名と新たなスタッフの紹介。
- ・いわてわんこ節電所のリニューアル。トピックスの更新について
- ・自主出張環境学習会2 地域3 回シリーズの企画・運営及び協力団体等について。  
それぞれ2 地域のテーマを説明し、良かった点、反省点及び改善点などを説明した。
- ・推進員の研修会では研修会で終わりではなく、その後の活動につながった有意義な研修会となったことを説明。キリバスの現状についての講演からワークショップ、環境紙芝居作成に至るまでについて。2 か月間にわたって推進員の方が紙芝居作成に尽力したことをお伝えした。
- ・センター内展示の工夫については視覚に訴える展示物を増やし来館者の興味をさらに深める効果があったことを説明した。
- ・環境学習講座についてはリサイクル工作の視点のみならず家づくり専門の講師をおよびしてエコハウスについての理解を深めたうえでの工作づくりを行った。また講座だけではなく口笛コンサートとコラボした企画といった新たな視点の環境学習講座の工夫も行った。
- ・温暖化防止フェアではこれまでと違った視点のダブルダッチ（縄跳び）、バイオリンエココンサート、東京オリンピックに向けてメダル製作のための資源再利用として小型家電の回収を行った。制服及び食品の回収など新たな取り組みについて説明。特にダブルダッチについてはこれまでとは違った視点から省エネを伝えるスポーツとして紹介。参加者と県立大性が一体となり温暖化防止フェア最終日を盛り上げた。

##### ○櫻井が実施状況について資料に沿って説明

説明内容については資料参照の事

資料1 評価項目に対する活動実態について

資料2 環境学習交流センターの履行状況

資料3 温暖化防止活動推進センターの履行状況

#### 議長より

委員の皆様より履行状況について質問等ありませんか。

加藤委員：

全体的に気が付いたのは他の企業、地域の方が巻き込まれていて一緒にやるという姿勢がたくさん見えてなんかいいなと思って見ていた。自主出張などではその地域で活動している方へ声がけしたと思うがそれをピックアップするだけでも大変ではないかと思う。

私の情報の取り方が悪いのかもしれませんが、自主出張環境学習会が宮古で行ったことが釜石

まで伝わらなかったことが残念。それくらいの近くだったら釜石でも興味を持つ方がいたかもしれないと思うと末端まで情報が来ないのが残念でしょうがない。せっかく宮古で行ったので他の沿岸にも情報提供があればいいのではと思います。

センターの中でキリバスのお話し、アイーナ夜学などもやっているがそれが情報として入ってこないのは残念。

釜石は今、来年のラグビーワールドカップの事で頭がいっぱいで環境の事やっつけられない状況ですが、そういう中で環境の状況をお知らせできる何かいい方法はないかと思っています。

以前振興局にお願いして県民室に告知板を作ってもらったが利用されたのは私のごみ拾いの情報1回だけでした。何かもどかしさを感じています。

海岸林再生を自身が行っているから興味があるが、他の人に伝わらない。ワールドカップで記事がいっぱいになってそういう海岸林等の記事は小さな記事となってなかなか目につかない。

#### **生田委員：**

情報発信についてはこれまでも申し上げている一人ですがなかなか全部にというのは大変だともいます。課題かなと思います。選ぶ団体、どういう人に声を掛けたらよいか、みんなにというのは大変だし、ホームページも見ない人もいます、ある年代からはホームページも見ないなど。二戸だとしたら、環境団体へ連絡する、振興局なり、市の生活環境課などに電話するなどして行ったらよいのではないか。環境活動しているとセンターで仕事できたらいいなとも思っている。

自分の担当校の先生に声をかけると子供たちを連れていくのにどうやって連れていくかなど情報提供しても参加が難しい問題も発生する。

出張などでいらっしゃるときには連絡がつくような形にいただければ幸せです。環境団体に普段から情報提供していると何かあったときに一報入れていただけるとそこから広められることが出来るのでは。そうしないと情報発信が永遠の課題となりますね。

#### **加藤委員：**

いわてグラフへの掲載などもよいのではないか。

ローカル新聞は結構開催が近くても融通を利かしてくれる場合もあります。あまりイベントが多い場合には切られてしまう場合もある。末端の市町村は情報を手に入れるのが難しいと思いました。

#### **目時主査：**

2か月前にエントリーその後選別されるのでギリギリの企画では掲載は難しい。

#### **千田委員：**

多種多彩で数も多いし、これを運営委員が30分くらいの説明をきいて中間評価するのは難しい。いつもながら難しいという気がしています。野澤代表、スタッフの皆さんがベテランの域に達しているのでモチベーションを高めながら、新たなことにも取り組むなど大事なかなと思います。

いわてわんこ節電所についてもどれくらいの方が見て、見た人の反応が分かる相互方向の取り組みになればいいなと思います。

HPはパソコン開く主体的な行動をしないと情報は届かない。待ちの状況の方には届かない。FAXとか電話とか個別に声をきかないと届かないのではないか。地域の温暖化協議会も利用しながら載せるようにしたら声が届くのではないのでしょうか。どんどん利用していったらいいのではと思います。

#### **加藤委員：**

地域の懇談会に出たが環境問題、今温暖化で大変なことになっているというのが計画の中に全くなくて、今は地球が2個半分くらいの生活をしているのに総合計画の中に、温暖化対策を強めるなどの文言に変化が見られない。県は環境王国の名に恥じぬよう頑張っていく、温暖化を防ごう隊の名前もあったが、具体的に沿岸広域では今のようにして地球温暖化を防いでいこうかという方向が見えないやり方だったので「環境教育を入れていただきたい」と提言した。私たちはいずれ消えていく。「今子育てをしている人たち、今まちづくりをしている人たちにわかってもらわないとだめなのではないか」と、言ったところ、「国の総合計画で県でもやりなさいと言うことだからおおざっぱなものでもいいんだよ」という説明だった。私は環境教育というものは大切な

ではせないという話をした。

世界首長誓約日本 in いわて→持続可能（経済的に持続可能にしたいという意味が強い）そういうことではないよということを各地域の首長にわかっていただきたい。

**議長：**

今後のセンターの運営について皆様からご意見何かありませんか。

**野澤：**

首長誓約については網羅的にやるのではなく1市町村ごとに行っていきたい。

考え方は加藤さんのおっしゃる通りですが動こうとすると産業をどのように動かしていくか難しい問題が発生する。第二次産業革命に向けて動かなければならない。私が手を挙げてすぐやりましょうという状況ではないが、そういう意識を持った市長さんが一人でも出てくるとだんだん賛同者が増えてくる。

現実にノルウェーでは2025年にはガソリン車は販売禁止、それくらいの速さで動いている。日本もガソリン車ではない車を開発しないとノルウェーでは日本の車販売できない。

**生田委員：**

野澤代表は各市町村の全部の首長さんとお会いするのですか？

**野澤：**

初めは5つくらいかなと思っています。

**千田委員：**

通常総会についても見ました。次年度以降について経済的視点が大事な。経済が世の中を動かしている。企業自体も環境、省エネは儲かるということで車をつくるなど、企業の取り組み効果大きい。展示だけではなく企業を呼んで説明してもらうなどした方がいいのではないか。県民の皆様に行っていたきたいことを県と連携し発信とするなど。

推進員のように意識の高い方と興味のない方への伝え方対策を行っていただきたい。

**加藤委員：**

ワールドカップで来る国の一つにフィジーがあります。フィジーも沈む国なので何か救うためのキャンペーンできないか？またイベントごとではごみが出るのでそのごみ対策などを考えているがどこにどう伝えればやってもらえるか？

**佐々木：**

キリバスのケンタロ・オノ氏の生の声の力は大きかったのでフィジーの話も是非実現したい。宮城県のようにスタジアムを抱えている県では大会をエコな大会にしていこうとしているのでそのような情報を得ながら今後展開していければいいですね。

**加藤委員：**

海岸林を行っている学生と一緒にごみ問題を取り組んでいくことはできないかと思っているところですよ。

**生田委員：**

サッカーなんかごみ拾い行っていますよ。「釜石ではプラスチックのストロー使っていませんよ」と言える大会にできたらいいですね。

プラスチックを食べる微生物の研究を岩手大学の山田先生が行っている。（山田美和准教授）

**佐々木：**

そういうことをみんなが知るということが大事ですね。

**加藤委員：**

せつかく世界中の方たちが来るから経済と環境をどう調和させるか考えています。

アドバイザーの派遣ではなく釜石小学校へ招かれて事前学習、水生生物調査を行って上流と下流の調査を行ったところ下流の水が汚かった。

子どもたちから自然発生的に「このきたない水をどうやったらきれいにできるんだ」と疑問が出たので実験を行った。味噌汁、油、しょうゆなど10種類くらいの実験を行った。

醤油流してはいけない、のみ残しを流してはいけないということが子供心に分かったようだ。

頑張っている子供たちもいるのでそういう子供たちにワールドカップの機会を通して「みんなでエコやってみようじゃない」と声をかけてみようかなと思っています。

**佐々木：**

	<p>そういう体験がある子供たちにプラスαをしてあげると全部つながってきますからね。</p> <p><b>生田委員：</b>      全県的な問題であるけれど、ラグビーがあることを機会に釜石、近隣の市町村と一緒に盛り上げてみてはどうですか。</p> <p><b>議長：</b>      時間となりました。委員の皆様からの貴重な御意見等を今後のセンター運営に活かさせていただきますようお願いいたします。</p> <p><b>議長の講評：</b>      新しい取り組みと今までの作られてこられた枠組みを使いながら内容とかメニューをかえるなど二通りの取り組み方があると思う。      ラグビーのワールドカップのようにその時のチャンスを活かすかどうかというところでSDGsもパリ協定も大きな潮流の流れの中でのチャンスとして新しい取り組みをすることも大事。既存の枠組みを新しいメニューだったり、やり方、新しい団体だったり連携しながら既存の枠組を活かして新陳代謝をしながら進めていくことがマンネリにならない方法かなと思う。新しい取り組みになったときこれまでの既存の方法を活かすのと新しい潮流に乗った方法で行う二本立てをして行くことがいま求められていることではないかと思いました。      情報発信は難しくデジタルとアナログの話がありましたが、オンラインの発信の仕方も難しくフェイスブックやツイッターも活用されているがどれくらい伝わっているかわからない。アナログも大事、デジタルも大事。相乗効果を生み出す発信をどのようにしていくのか情報発信の難しいところである。      御意見としていただいたことを今後に生かすよう検討していただきたいと思います。試行錯誤は続く課題なのかなと思います。チャレンジしていただきながら取り組んで行っていただければと思います。</p> <p><b>櫻井事務局長より：</b>      評価シート、評価項目の2種類について評価をしていただいて平成31年1月15日までに郵便、メールの方法で送付をお願いいたします。      3月にもう一回お集まりいただくこととなります。日程を調整しますので宜しくお願いいたします。</p> <p><b>加藤委員：</b>      評価項目が難しい、評価シートは数字が出ているから評価しやすいが、評価項目はなかなか難しい。去年からですよ。</p>
6. 特記事項	無し
7. 概要・所感	<p>平成30年度第1回目の運営協議会はセンター内にて現在の展示状況や今後の展開について野澤代表より説明を行いました。その後開催場所へと移動し、昨年度と大きく変わった点の事業について映像をお見せしながらの説明と事前に送付していた資料について細かく説明をいたしました。短い時間の中で理解をしていただくには限界もありますが、出来る限り理解をしていただくような会にできたのではないかと思います。これまでの課題でもある情報発信については効果的な発信元との連携やデジタルだけに頼らないアナログ的な電話やFAXなどの手段も大事にしながら人とのつながりを持って活動することが求められています。</p> <p>委員の皆様より情報発信についての在り方など貴重な御意見を頂くことが出来ました。便利な世の中となりましたが、その方法で伝わっているのか確認するすべもなくデジタル化ではないアナログ的な発信も忘れてはいけないと感じています。またどこにつなげることが出来たら効果的な発信ができるのか様々な団体との連携も必要です。これまで培ってきた枠組みと新たな視点を生かしながら事業を行っていくことが大切なのではないかと感じた運営協議会でした。</p>